

第3回町政モニター会議 懇談内容

日時：令和元年11月28日（木）午後7時～9時

会場：役場庁舎4階 第3・4委員会室

「中学校の部活動について」

町政モニター：北部中学校は生徒数の増加により、今年度から弓道（女子）、バスケ（男子）、卓球（女子）、工芸（男女）の部活動の種類が大幅に増えた。既存の部活動が増えているだけで、サッカーといったメジャーなスポーツがない。町内にはサッカーのクラブチームがあり、子どもたちが一生懸命、サッカーに取り組んでいる。しかし、中学になるとサッカーを辞めなくてはならない現状である。調べてみると、過去に何度もサッカー部を作っ
てほしいとお願いをしているが、一向に出来ていない。新たにサッカー部を設定してほしい。また、サッカー部ができない理由を教えてください。

数年後に高力地区に北部中学校のグラウンドを造成すると聞いたが、何のためにグラウンドを造成するのか。部活動で使用するためか。サッカーのグラウンドができるのか。

学校教育課長：ご指摘のように、北部中学校におきまして、生徒数の増加に伴い、弓道部女子、バスケットボール部男子、卓球部女子、工芸部男女合同が新設された。北部中学校の意向としては、いずれも既存の部活動における対応である。

部活動につきましては、基本的には各学校の意向で諸条件を考慮して設置をしている。今回の新設につきましては、男子部、女子部のみだった部活動に、なかった女子部や男子部を併設する形となっており、町内中学校の既存部活動も考慮したと聞いている。

高力地区にグラウンド増設の件については、既存部活動の活動人数が増えることによる活動場所、来校者駐車場の確保が主な用途である。高力の増設グラウンド用地は、中学生のサッカー部活動場所として必要な広さには足りていない。サッカー部新設については、現在、野球部、ソフトボール部が活動するグラウンド以外に用地が必要となることもあり、厳しい状況であると考えている。

町長：教育委員会ではなく、学校の運営方針が尊重されるのか。

学校教育課長：基本的には学校の意向で決めている。

町長：サッカーができるような場所の確保はしたいと考えている。来年度以降で、場所の選定、実施設計と進めていきたい。有名なサッカー選手、元プロ選手等にスポーツ大使になっていただき、サッカー振興、子どもたちに球技に親しむ機会をつくりたいと考えている。

学校教育課長：限られたスペースの中で部活動を行わなければならない中で、サッカーは、かなりの広さが必要となることもネックになる。

町政モニター：坂崎の遊水地にグラウンドがあると思うが、そちらの検討はどうか。

生涯学習課長：坂崎遊水池の予約受付と管理は生涯学習課で行っている。

学校教育課長：学校外の施設となると、移動時間や管理の問題も出てくる。部活動の時間も短くなってきていることを考えると、なかなか難しいのではないかと。

町長：働き方改革の関係で、先生たちの負担を軽減するという方向性もある。

町政モニター：岡崎など近隣の市町村で、サッカーや野球を両方、部活動でやっている所もある

と思うが、他の自治体のことは調べているのか。

学校教育課長：他市町の事例についての調査はしていない。

町長：学校運営方針もあり、行政の立場からは、これ以上の説明ができない。

町政モニター：結果的に無理だとしても、もっと他にも検討の仕方があるように感じた。

町長：先生方の考えもあるので、行政の立場から言えない部分もある。納得いく回答が出来ず、申し訳ない。

「運動ができる施設の整備について」

町政モニター：町内に、子どもたちが体を動かして遊ぶ、運動ができる施設があると良いと思う（アスレチック、体育館など）。

生涯学習課長：アスレチックよりも、総合体育館の要望をたくさんいただいている。総合的な要素を持った施設を考えていきたい。

町政モニター：今の子どもたちが、家の中でゲームやユーチューブばかりなので、外で遊ぶようになってほしいと考え、アスレチックなど、体を動かすところできると良いなと思った。

町長：中央公園、たくさんの方がウォーキングをしている。中央公園で健康づくりができるような遊具を取り入れたい。総合体育館の建設は用地を含めて数十億かかる。国県の助成を利用しながら、場所は町民会館周辺が良いと考えている。特定の競技で、公式の県大会が開催できるような施設にしたい。また、災害時の広域的な防災拠点にする、健康づくりのためのジム設備を備えるなど、複合的な施設にすることで、町で全てのお金を出さなくても、総合体育館ができるような方向性ができれば、造っていきたい。

「勤労者体育センターの予約について」

町政モニター：幸田勤労者体育センターのことについて、町外の団体に丸1日予約されてしまい、町内子ども会で使用することができなかった。先行予約を区単位まで下げてほしい。

生涯学習課長：学区や区が開催するスポーツ大会については先行予約の対象としている。子ども会の利用については、数も多くなるため、優先予約は難しい。現状の1か月前予約で御理解ください。

町政モニター：子ども会でドッジボールをやっている。優先していただけるとありがたい。

町長：少しでも多くの方が利用できるようなかたちを考えたい。検討します。

「テニスコートについて」

町政モニター：町内に庭球場が3箇所あるが、とぼね庭球場はクレートコート（？）の整備が悪く使いにくい。決まった団体がいつも使っているのでも空気が少ない（利用者の感覚なので利用把握

はしていない)。幸田南部に集中しており、北部に庭球場が無いという意見があった。幸田町立学校体育施設のスポーツ開放に関する条例がある。小学校・中学校の体育館、運動場はスポーツ開放しているが、テニスコートは対象外となっている（管轄の課が違うようである）。テニスコートはスポーツ開放できるように検討してもらいたい。

生涯学習課長：学校体育施設のスポーツ開放は、学校が利用しない時間に限り開放をしている（平日の夜間及び週休日）。テニスコートは、中学校の部活動で使用しているため、現状のスポーツ開放（一般開放）は難しいと考えている。

庭球場に限らず、不具合等については迅速な対応に努めている。予算の都合上、対応が難しい場合もあるが、お気づきの場合は御連絡ください。

町政モニター：部活動の利用が土日どちらかになっているので、空いている時間があると思うが、どうか。

学校教育課長：確かに、土日はどちらかになっている。ただ、雨天の場合に翌日に利用する場合があるかなど、運用については確認していないので、開放できるのかどうか、確認する。

町長：他の市町の事例はどうか。

生涯学習課長：他の市町の事例までは確認できていない。現状は、運動場と体育館の利用となっている。

町長：持ち帰って、確認する。次回、説明したい。

「5G（高速大容量通信）を活用した、福祉・教育面での有効利用策について」

町政モニター：日本でも20年より普及されると云われる5G(高速大容量通信)を活用した福祉・教育面での有効利用策について検討を始めてみてはどうか。

5Gの具体的な利用策については、まだまだ検討段階であると聞いている。アイデア次第で幸田発の先進福祉利用ができるかもしれない。まずは、5Gといってもイメージがわからないと思うので、手始めに、総務省のホームページを参照すると、地域の課題解決にICTを利用したICT(情報通信技術)地域活性化策の募集と大賞の表彰も行われている。

幸田独自の面白い取り組みが出来る事で、全国的にも幸田の良いアピールが出来ると思う。また、近い将来、この様なICTの技術者が世界的に必要なと言われており、幸田町においても子ども達向けの学校での教育カリキュラムや大人も参加できる地域のクラブ活動的な教室を開催する等、ICT先進タウン・幸田を全国に発信してはどうか。

町内の有識者や企業の参画も求めて、知恵出しから始めて1年ぐらいで具体策に落とし込んで行く位の時間軸で取り組んでみてはと思う。

福祉課長：本町ではまだ取組はないが、他市町村では離島や山間部での医療・介護・福祉に5Gを活用する取組がされているのは承知している。

福祉課としては、先進的な取組をしている他市町村や、各企業等の事案等の中から、本町でも活用できそうな内容のものを検討していきたいと思っている。

学校教育課長：本年4月に、総務省は、携帯大手4社（NTTドコモ、KDDI、ソフトバンク、楽天）に、5G（次世代の高速移動通信方式：5 generation）の周波数を割り当て、2020年春ごろのサービス開始に向けて準備を進めている。この通信方式になりますと、通信速度や容量の向上、同時接続数の増加、遅延時間の削減ということが考えられている。

また、学校では、来年度から小学校でプログラミング教育が行われる。新学習指導要領には、「プログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために、必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動」を計画的に実施することと明記され、具体的には、算数や理科、総合的な学習の時間等においてプログラミングを行う学習が考えられている。

5Gの利用が実際に可能になりますと、先ほど述べました5Gの特性から、授業中のダウンロードの待ち時間が少なくなり授業時間を有効に活用できたり、作品や美術品等の細部を観察しながら自分の作品の完成度を高めたり、生徒それぞれの授業の感想をプロジェクターで一度に映しながら、授業の振り返りができるようになるのではないかと思う。

いずれにしても、通信速度や容量の向上、同時接続数の増加、遅延時間の削減といった5Gは魅力的だと考えているので、5Gの普及状況を見ながら、将来的に学校での活用についても情報収集していく。

町政モニター：幸田町で自動運転の実証実験をやっている。5Gとリンクするような取組はできないか。

企画部長：自動走行は通信速度よりも座標認識などの処理能力の向上が課題とのことである。

町長：自動運転でレベル4の実証実験を行った。次にどう生かしていくか。特区というかたちで、住宅団地の中を自動運転走行のカーツのようなものが自由に行き交うようなことができないか、企業の方に提案している。この町ならではの取組を皆さんに御理解いただけるような講演会をやりたい。

「放課後児童クラブについて」

町政モニター：放課後の児童クラブについてですが、幸田小学校では、民間の会社が児童クラブの運営をしていると聞いた。そのことについて、様子とこれからも続けていくのか、また、増えていくのか聞かせてほしい。

こども課長：令和元年度夏季休業日から民間委託を実施している幸田第3児童クラブについては、支援員の確保も順調であり、待機児童も発生していない。

また、幸田町児童クラブの指針に従い他のクラブと同等の運営を指導しているため、特に問題は生じていない。

今後は、運営状況を検証し、民間委託についての方針を検討する。

町政モニター：今後も民間への委託を増やしていくのか、それとも、足りない部分を民間で補うということか。

町長：待機児童を0にするために、民間の力をお借りした。

こども課長：支援員の確保が難しくなっている。近隣では、全て民間に委託していく流れである。幸田町は、すぐに全てを民間に委託することは考えていない。

町政モニター：全て民間に任せるならいいが、民間が運営する所と、町が直接、運営している所で、差が出てしまうのが心配である。

こども課長：今のところ、保護者からの苦情は聞いていない。今年が1年目であるので、もう少しばらく様子をみたい。

町長：待機児童を解消することを優先した。スタートの1年になりますので、1年経過したとこ

ろで検証したい。

「えこたんバスについて」

町政モニター：えこたんバスの停留所の位置について、利用者の多くは、自動車に乗れない高齢の方が多くと思うので、福祉に関係あると思う。

今、桐山老人憩いの家の所（神社）に停留所はあり、桐山のかなり片寄った所である。先日、その反対方向の70代の方が利用して話をする機会があり、その中で「どうして桐山は中央に停留所がないのか」と言われた。よく考えて決まった場所が今の所だと思うが、区内全体の人々を対象にするならば、中央付近にある方が、利用者も今より変わってくるかと思う。今は、あまり利用者を見かけない。桐山の中央付近だと、コミュニティホームがある所になる。検討してほしい。

財政課回答：えこたんバスは、平成23年度末に運行開始した後、名鉄バスの町内撤退（平成26年10月1日）に対応するため平成27年度にルート、時刻表等を一部変更している。

特に、いわゆる交通弱者と呼ばれる方々にとって日々の生活における貴重な足（移動手段）として利用してもらうことを基本理念として無料で運行しており、町内公共施設・医療施設・商業施設等を結びながら主要な集落をカバーし、4ルート、1便約1時間、1日6便体制で運行している。子どもから高齢者まで幅広く目的によらず、どなたでも、いつでも気楽に利用できるが、実際に日々利用されているのは近距離の町内移動も車等での移動が容易でない、高齢者の方が多い状況である。

御要望に応じて、これまでバス停の新設・移動、ルート・時刻表の一部変更（名鉄バスの町内撤退への対応として平成27年度に変更実施）等を行ったことはあり、なるべく多くの利用者にとって使い勝手の良いバスとなるよう配慮していますが、ルートやバス停位置の選定にあたっては安全面を最優先に考え、狭い道路や見通しの悪い場所は選定できないという制約がある。

桐山地内には1箇所、東西ルート「桐山老人憩の家（桐山神社）」停を設置しており、バス停位置は確かに桐山の集落内でも東端に近く、隣のバス停は「高齢者ふれあいプラザ」停（大字上六栗地内）及び「道の駅（筆柿の里・幸田）」停（道の駅駐車場内）となっている。

桐山中央コミュニティホームへのバス停設置を御提案いただいたが、現行ルートは桐山中央コミュニティホーム方面へは設定されていない。現地の状況を確認したところ、えこたんバス車両（マイクロバス・乗車定員29人）のサイズだと、桐山中央コミュニティホーム敷地内又は周辺で向きを変えられる余地がなく、これをルートに含めて設定することは困難な状況である。

桐山の集落内は、えこたんバス車両を走らせるには狭い道路が多く、安全運行を確保できるよう検討した結果、現在のルート及びバス停位置に決定した経緯があり、当面は現行の運用で御理解をお願いしたい。

町政モニター：バスの向きを変えるところがないとのことであるが、桐山組合倉庫のところに広場がある。今は、ガードレールがあるため無理だが、一部を削ることができれば、そこで、Uターンできるのではないか。

企画部長：御意見を参考に、検討したい。

町長：今のバス停の決め方は、現況の地形に合わせて、大型バスが停められる場所を探すという方式である。現況を変えることで停車が可能か、検討したい。

えこたんバスは、病院や駅、買い物などで一定の利用者はある。ただし、時間当たりの本数が限られている。民間のバスのように通勤、通学にも使えるようにはなっていない。福祉バスとして始めたものである。

藤田医科大学病院が完成する。駅から病院への足を確保するため、駅と病院を往復する運行方法や、「チョイソコ（7人程度の定員で、乗り合いタクシー）」を実証的にやりたいと考えている。学区単位で停留所を選んでもらい、そこから、公共的な場所を中心に運行する方式である。実証実験で皆さんの利用データを積み上げることによって、利便性の高いものになるのではないかと考えている。

「病院の誘致について」

町政モニター：豊坂学区に病院がないので、内科医院または診療所があると良い。高齢者は、遠くに行くのは大変なので近くに欲しい

健康課長：本町はこれまでも大草地内に医療団地として医療機関を誘致してきたこともあり、医療機関誘致に関することは重要なことと考えている。特に、外出が大変な高齢者の方にとっては身近に医院や診療所があると良い、と思われることは当然のことである。

近年においても、「幸田町内で開業したいが、土地はあるか？」といった問い合わせが何件もあり、まずは医療機関のない豊坂学区内の土地を紹介しましたが、残念ながら合意に至らなかった。

また、現在町内で出産できる施設がないことから、住民意識調査のなかでも幸田町に必要なものとして、産婦人科医院をあげている方も多い。誘致に向けて働きかけ等を行っているが、産婦人科医はなり手が少なく、町内開業まで至っていないのが現状である。医療機関誘致に向け、岡崎市民病院、岡崎市医師会、藤田医科大学に開業していただける医師はいないかとお願いに行くなど引き続き努力していきたい。

町長：人口が増えており、立地が可能になってくると思うので、期待に応えたい。

12. 高齢者と暮らす家族の相談窓口について

町政モニター：私の敷地内にて主人の両親と暮らしており、車で10分程度の岡崎市内には私の両親が暮らしている。今は、みんな元気だが、義父は間もなく80歳を迎えることもあり、自動車の運転等で、いつまで安全に乗ってもらえるかと思うこともある。両親と暮らす人は、今の幸田町では少数派かもしれないが、私の周りでは多く、これからについて、不安に思っている方も多い。テレビなどで見たことがあるが、高齢の両親に免許を返納してほしいとき、家族の言うことは聞いてくれないことがよくあるようで、私も、そう遠くないうちに同じような経験をしようと思う。そういう場合に、町に相談できる窓口があったら心強い。親に認知症のような症状が現れた時に、まずどうしたらいいか相談できたり、例えば、節目の年に、親に記入してもらえるエンディングノートを贈呈してもらえたり（自

分からは言いにくい)、高齢の方を支えていく家族が安心できる体制があれば知りたいし、なければ、ぜひ、検討してもらいたい。

私は、6年・4年・年長の子どもを育てているが、教育について、今、問題や不満に思っていることはない。

福祉課長：高齢者の総合相談窓口として、幸田町社会福祉協議会内に幸田町地域包括支援センターがあり、主任介護支援専門員、保健師、社会福祉士等が、地域で暮らす高齢者に関する相談を受けている。

また、免許の返納については「高齢者だから返納しなくてはならない」のではなく、身体的機能の低下や認知機能の低下により、運転技能の衰えがみられる時には、高齢者に限らず返納していただくのが本来である。特に認知機能の低下等がみられる場合は、判断能力も低下しているため危険が増すと思うが、その時に免許の返納の話をして、本人のプライドが傷つき、運転に対する固執が発生すると言われている。そのため、できるのであれば、認知機能が低下する前に免許の返納について、御本人と御家族で機会を設け、御本人が納得し、御本人の意思で返納していただく必要がある。

福祉課としては、防災安全課や岡崎警察署等と連携を図り、高齢者本人等へ免許返納に関する普及啓発をするとともに、権利擁護の観点からも、幸田町社会福祉協議会、幸田町地域包括支援センター、幸田町成年後見支援センター等と協力をし、高齢者を取り巻く課題についての施策を推進していく。

町長：J A坂崎支店の跡地の1階に、シニア・シルバー世代サポートセンターを設置する。2階には、介護の相談窓口、拠点を作りたいと考えている。

町政モニター：相談窓口があると知ることで安心する。広報紙などで紹介してもらえると良い。